

サーサナ

第52号 仏暦2564（西暦2021）年5月12日

七仏通戒偈

いかなる悪も行わず	もっぱら善を完成し
自己の心を浄くする	これが諸仏の教えなり

仏教＝仏の教えとは何か、と尋ねられた時、いちばん明瞭にして簡潔な説明は、上に掲げた偈文ではないかと思えます。

これは、『ダンマパダ』という古い經典の第183偈です。『ダンマパダ』は東南アジアの仏教徒なら知らない人はいないくらいポピュラーな経ですし、中国や日本では、古くはヴィジュナ等が漢訳した『法句經』に「諸惡莫作 衆善奉行 自淨其意 是諸仏教」とあり、これが有名になっていきました。道元禪師や一休禪師らも特にこれを重視しました。

七仏というのは、釈尊を含めた過去仏のことです。それらの仏たちの一貫した教戒、ということで「七仏通戒偈」といわれます。

これについては、有名なエピソードがあります。それは――

中国唐の詩人・白居易は禪を好み、道林禪師に「仏教の真髓とは何か」と問うたところ、この偈の前半を示された。白居易は「こんなことは三歳の子どもでもわかるではないか」と不満を示すと、道林禪師に「三歳の子供でもわかるが、八十歳の老人でもできないだろう」と反駁され、白居易は即座に自らの至らなさを悟り、深々と道林禪師に礼拝して立ち去った。

ということです。これは史実ではありませんが、道元禪師もこのことに言及しています。「わかる」と「できる」とは全く異なるということを示した逸話です。仏教が知的な理解よりも、実践的・体験的な智慧を重んじるゆえんです。

戒、といいますと、何か命令とか禁止のように聞こえますが、戒の本来の意味はまったく自律的な習慣を意味するのであって、自覚と意思にもとづくものなのです。

前半二句（諸悪莫作 衆善奉行）だけを読むと、倫理道德に過ぎないではないか、とも思えます。たしかに三歳の子どもにも分かることです。仏教としてのポイントは、第三句（自浄其意）にあります。釈尊以来、仏教では心の動きを重視し、それゆえに高度な心理学（今でいう臨床心理学、分析心理学）を発展させてきました。『ダンマパダ』の第1・2偈には「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によって作り出される。もしも汚れた心で話したり行ったりすれば、苦がその人につき従う。もしも清らかな心で話したり行ったりすれば、楽がその人につき従う」とあります。

ところが、実際にはそんな簡単に心を清くするわけにはいかないことは、みなさんがよくお分かりです。

「無理なことはやめておこう」、というなら、話はそこで終わります。しかしながら、悪いことをしても平気、という人はほとんどいないのではないのでしょうか。悪いことをすれば心が痛みます。良いことをすれば幸せな気持ちになります。そうである限り、希望はあるのです。

自力の仏教では、あくまでも自分の力を信じて邁進していくことになります。いっぽう、浄土真宗は他力の仏教で、自分の力があてにならないことを自覚し、そこで阿弥陀仏の本願に自分を委ねることから出発します。そして自分を委ねきったところに「自浄其意」が成り立つことを教えます。自力か他力か、その違いはともかくとして、「自浄其意」が仏教の通底であることは、私たち仏教徒は知っておくべきです。



新しい法務スタッフのお知らせ

本年4月より、当寺に新しい法務スタッフが勤務を始めました。法名は釋慶智（俗名 山口祥也）。現住職の長男です。1995年生まれ。大学院修士課程を修了後、2020年4月から2021年3月まで、名古屋の東海専修学院（同朋大学別科）で真宗大谷派僧侶としての基礎教育を受けました。法務に慣れるまでまだ時間がかかると思いますが、門徒の皆様によって育てをいただきたいと思います。なにとぞよろしくお願いいたします。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます

五月 永代経（えいたいきょう）

子々孫々、永代にわたって、浄土三部経が読誦され、仏法が伝えられることを願いとする法要。御懇志を頂いたお方の法名を記した掛け軸をお掛けします。（「永代経」という名前のお経があるわけではありません。）

残念ながら、コロナウイルス感染状況に鑑みて、今回も一般参拝を停止し、内勤め（住職ほかの僧侶のみ）、およびオンライン中継（Zoom）とします。オンライン参拝希望の方は、前日までにメールでお申し込み下さい。

- ❖日時 5月25日（火）午前11時～正午
- ❖内容 勤行（仏説阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話

六月 帰敬式（おかみそり）

帰敬式は仏教徒（真宗門徒）になるための儀式です。仏教に帰依したことを名実共に証するもので、受式することにより法名が授与されます。法名は「死んだ人の名前」ではなく、仏教徒としての名前（名告り）です。

- ❖日時 6月28日（月）午前11時～正午
- ❖受式費用 20,000円（うち10,000円は本山礼金）講習会当日お納め下さい
- ❖申込方法
 - 5月末までに、電話、メールなどにより、仮申込みをしてください。
 - 下記の講習会には必ずご参加下さい。
- ❖講習会
 - 6月19日（土）午後1時～4時半
 - 仏教の基礎的教義や浄土真宗の成り立ちについて住職が講義します。
 - 既に受式済の方も講習会を無料で受講することができます。ただし事前にお申し込み下さい。
- ❖記念品を用意いたします。
- ❖法名に希望の文字があれば、御相談に応じます。

八月 盂蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

もともとは、釈尊の弟子の目連尊者が、餓鬼道に堕ちた母を救うために、安居（集中講義）の終わる7月15日に、大勢の出家僧侶に飲食物の供養を行なったことに由来する行事です。永代経同様、オンラインでの参拝もできます。

- ❖日時 8月13日（金）午前8時～9時
- ❖内容 勤行（和訳阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話（住職）
- ❖持ち物 勤行本（『抄訳佛説阿弥陀経』『正信偈同朋奉讃』）
- ❖記念品 朱蠟

盂蘭盆会について個別（家族単位）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。

1. 本堂でのお勤め

8月14日午前8時より正午まで、15分刻みで御希望の時間を指定していただけます。先着順です。十六家族様まで。

2. 自宅の御内仏前でのお勤め

13日（午前・午後・夕方）、14日（午前・午後・夕方）、15日（午前・午後・夕方）のうちのいずれかの時間帯を選んでください。午前とは9時から12時まで、午後とは1時から4時まで、夕方とは5時から7時までをいいます。これ以外の日時は応相談。



永代経懇志お礼

下記の方から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

4月6日 大橋様[天白区] 20万円



真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弼（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
